

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年5月8日(日)第二主日礼拝 午後2時～  
週報「通算第607号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌458「光の高地に」	p. 734
【交読文】	No.19 詩篇第51篇(抜粋)	p. 893
【賛美Ⅱ】	新聖歌505「主われを愛す」	p. 807
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.16「ラッパを吹き鳴らせ」	
【聖書朗読】	使徒の働き16章16節～22節(新約p. 268上段)	
【礼拝説教】	《パウロとシラスと占い女》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ※本日の聖書箇所(使徒の働き16章16節～22節)

16:16 さて、祈り場に行く途中のことであった。私たちは占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをして、主人たちに多くの利益を得させていた。

16:17 彼女はパウロや私たちの後について来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えています」と叫び続けた。

16:18 何日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り向いてその霊に、「イエス・キリストの名によっておまえに命じる。この女から出て行け」と言った。すると、ただちに霊は出て行った。

16:19 彼女の主人たちは、金儲けする望みがなくなったのを見て、パウロとシラスを捕らえ、広場の役人たちの所に引き立てて行った。

16:20 そして、二人を長官たちの前に引き出して言った。「この者たちはユダヤ人で、私たちの町をかき乱し、

16:21 ローマ人である私たちが、受け入れることも行うことも許されていない風習を宣伝しております。」

16:22 群衆も二人に反対して立ったので、長官たちは、彼らの衣をはぎ取ってむちで打つように命じた。

### ●ポイント1. 「占いの霊」とは？

#### ※申命記18章10節～14節抜粋「異邦の民の行ない」 (旧約p.347下段)

18:10 あなたのうちに、占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、

18:11 呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死者に伺いを立てる者があってはならない。

18:12 これらのことを行う者はみな、【主】が忌み嫌われるからである。

18:13 あなたは、あなたの神、【主】のもとで全き者でなければならない。

18:14 確かに、あなたが追い払おうとしているこれらの異邦の民は、卜者や占い師に聞き従ってきた。しかし、あなたの神、【主】はあなたがそうすることを許さない。

### ●ポイント2. かつて主イエスの取られた行動とは？

#### ※ルカの福音書4章41節「カペナウムにおいて」 (新約p.117上段)

4:41 また悪霊どもも、「あなたこそ神の子です」と叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは悪霊どもを叱って、ものを言うのをお許しにならなかった。イエスがキリストであることを、彼らが知っていたからである。

### ●ポイント3. 今回の出来事から学ぶこととは？

#### ※ローマ人への手紙8章28節「すべてのことが益となる」(新約p.310下段)

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【ピリピのリディア】

《使徒の働きに戻ります。パウロとシラスとルカはピリピにやって来ました。ピリピとは、エーゲ海を南に望むマケドニヤ州の第一の主要都市でした。その住民は、ローマ人が退役軍人を中心に約半分、ギリシヤ人が半分で、ユダヤ人は少数でした。それゆえ、ユダヤ人の会堂はなく、ユダヤ人たちは、町の外の川岸において、安息日に集まって祈っていたのです。

パウロ一行は、安息日にその祈り場に行きました。そこには女たちだけが集まっていました。その指導者が、ティアティラからやって来ていたリディアです。彼女はティアティラ市の紫布の商人で、神を敬う人であったと、ルカは書き記しています。つまり、リディアは、ティアティラ市に本店を構える女主人であったのです。紫布と言えば、ローマ人が好んで用いるものでした。当然、紫布は御用達であったに違いありません。そうなりますとリディアは、かなり裕福であったことが考えられます。それゆえ、彼女を中心として、やがてピリピ教会が建てあげられることになるわけです。この教会こそが、ヨーロッパ最初の教会です。後に、使徒パウロをはじめ、エルサレム教会にまで、多くの献げ物を送って支えることになるのです。

さて、主ご自身が彼女の心を開かれて、パウロの語る言葉に心を留めるようにされ、その日のうちに、彼女と家族の者たちはバプテスマを受けました。まことに彼女も、主イエスが選ばれた器であることが分かります。

かつて主は、弟子たちにこのように言われました。

『「あなたがたが私を選んだのではなく、私があなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるためです。」』と。このように、主イエスはピリピ教会設立に最も相応しい人物として、リディアを選ばれたことが分かります。私たちも同じです。私たちが選んだのではなく、主イエス様が私たちをお選びになられたのです。ここに神様の不思議な摂理と恵みが有ります。そして、先に救われたことには意味があります。私たちには使命があるのです。》

## ◎お知らせ

※今日は「母の日」です。5月15日(日)の礼拝は午前10時からです。また、5月29日第五主日礼拝は特別メッセージを予定しています。